

**接続料の算定等に関する研究会  
事業者ヒアリング 説明資料**

**ひかり電話ネクストの扱いに係る  
当社の考えについて**

2024年11月19日

# 目次

1. 卸電気通信役務に関する基本的な考え方
2. 電話サービスの市場動向
  - －通話手段の多様化
  - －ひかり電話ネクストの市場での位置付け
3. 個別論点に対する当社の考え
  - －サービスにおける代替性
  - －接続での代替性
  - －メタル縮退計画
4. まとめ

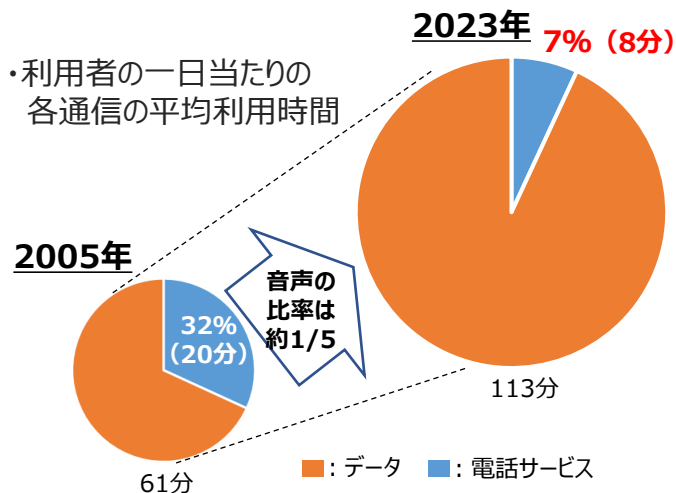
# 1. 卸電気通信役務に関する基本的な考え方

- 卸電気通信役務については、「電気通信事業者の創意工夫により高度かつ多様な電気通信サービスの提供を可能とするため、相対契約を基本」（接続料等の算定に関する検討会 第六次報告書 等）と整理されており、当該制度趣旨を踏まえれば、卸電気通信役務を過剰に規制するべきではないと考えます。
- このような卸の制度趣旨に加え、パートナーである光コラボ事業者の皆様との「共創」によって多種多様なサービスを提供することで市場を開拓していくというコラボレーションモデルの目的を踏まえれば、光コラボ事業者と当社の利害は相反するものではない（“競争”ではなく“共創”する）ため、光コラボレーションモデルに対して過剰な規制は不要であると考えます。
- 仮に協議の適正性確保のために特定卸に係る規制を課すとしても、多様な事業者の創意工夫によるサービスの柔軟性・多様性を担保する観点から、その対象は必要最小限の範囲とすべきと考えます。
- 具体的には、特定卸の対象は、卸元事業者が現に提供している役務のうち、公正競争上影響の大きい役務に限定すべきであり、その影響の多寡については、市場における当該サービスの規模やシェアといった競争の実態に着目して判断されるべきものと考えます。

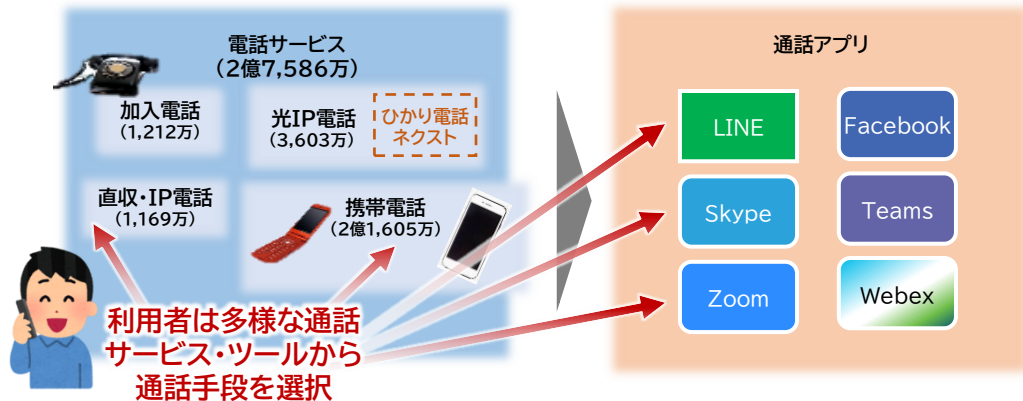
## 2. 電話サービスの市場動向 ～通話手段の多様化～

- アプリ等による音声の代替の進展やSNSによる新たなコミュニケーション形態の創出等の結果、電話サービスは多様なコミュニケーション手段の一つに過ぎなくなり、その効用は相対的に低下しております。
- 具体的には、通話手段の中心は、固定電話から携帯電話、更にはLINE、Teams、Skypeといった通話アプリ等の新たなコミュニケーションツールにシフトしており、コロナ禍を契機としたリモートワークの拡大により、こうした動きはさらに加速しております。
- 利用者はこうした多様なサービス・ツールから通話手段を選択しており、光IP電話はその中のワンオブゼムに過ぎません。

### <コミュニケーションに電話サービスが占める割合>

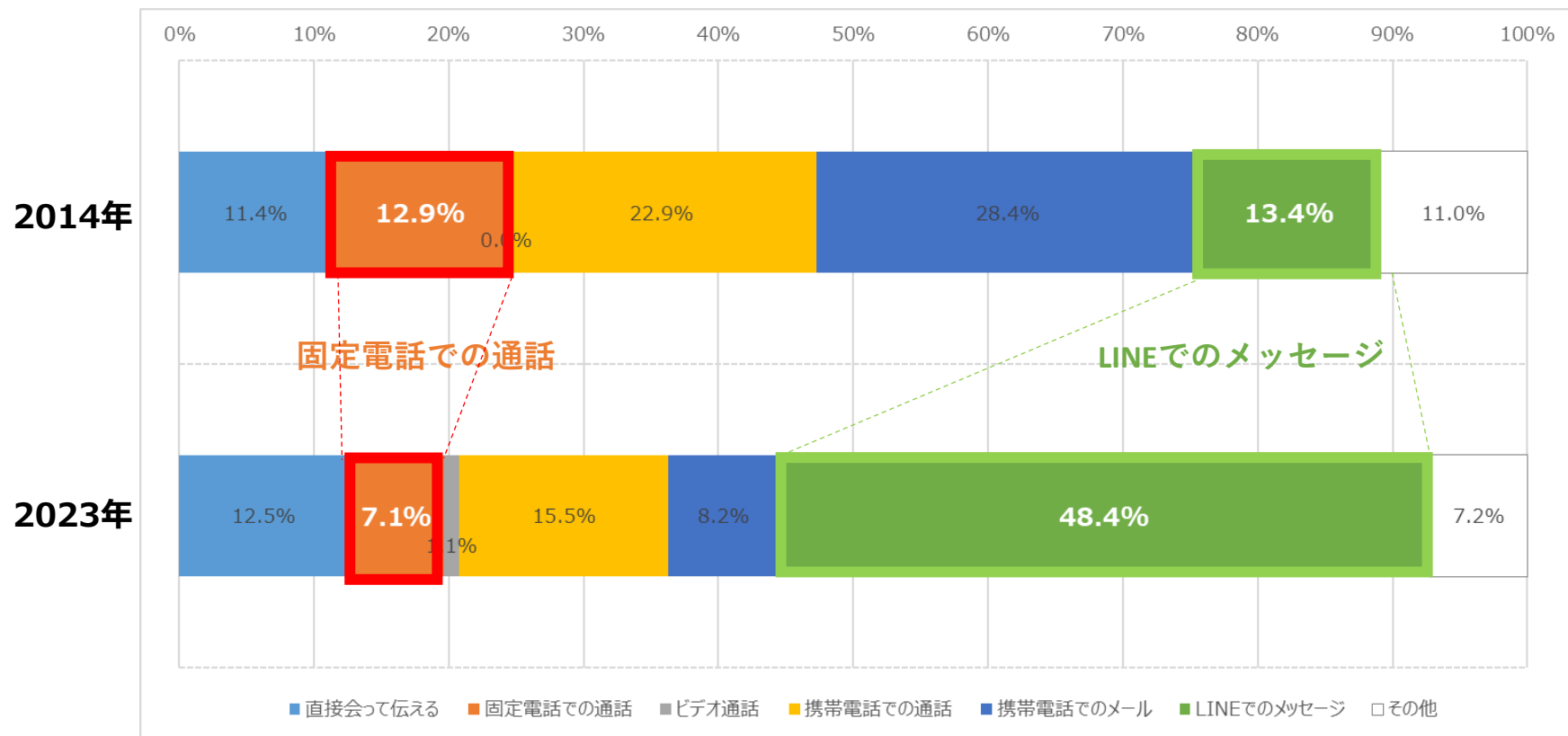


### ■ 様々な通話手段におけるひかり電話ネクストの位置付け



\* 総務省「電気通信サービスの契約数及びシェアに関する四半期データ(令和6年度第1四半期)」より当社作成

# (参考) 日常会話を伝えるために最も多く使う手段



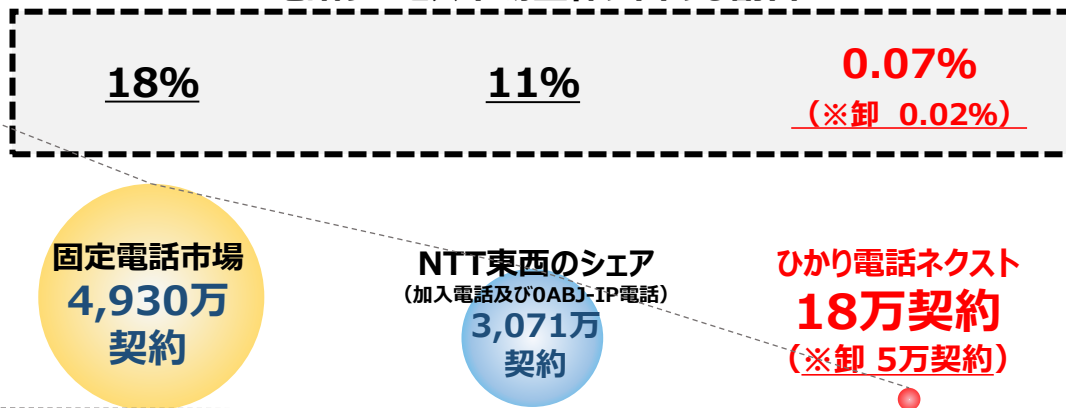
## 2. 電話サービスの市場動向 ～ひかり電話ネクストの市場での位置付け～

- 電話サービス市場（固定・モバイル）におけるNTT東西の固定電話（加入電話及び0ABJ-IP電話）が占める割合は、約11%となっているところ、今回の論点であるひかり電話ネクストが占める割合は0.07%（卸のみでは0.02%）であり、こうした市場における規模やシェアから見て、ひかり電話ネクストが公正競争に与える影響は極めて小さいものと考えます。（数値は2024年6月末時点）

### 通話アプリ等を含む広義の電話サービス市場 （通話手段）



### 電話サービス市場全体に占める割合



### 3. 個別論点に関する当社の考え ～サービスにおける代替性～

- 前回のプレゼンにおいて、モバイル0ABJ-IP電話は、「品質・機能を求める法人向けサービスの代替サービスとはならない」との主張がございましたが、中小法人向け市場における0ABJ電話サービスの提供状況について、当社が調査・検討した結果は以下のとおりです。

#### ①複数回線・複数チャネルへの対応ができない

⇒ モバイル0ABJ-IP電話やクラウド電話でも**複数回線・複数チャネルを持ったサービスは多数存在**

(Arcstar IP Voiceワイヤレス、UniTalk等クラウド電話)

※上記以外にも050IP電話や通話アプリ（Teams、WebEX等）も存在

#### ②緊急通報（0A0からの発信となってしまう）

⇒ **加入電話と同等機能を持ったサービスは存在**（auひかり マンションタイプ）

※0A0番号通知または緊急通報を利用できないサービスも多数存在。中小法人ユーザは、費用対効果等も鑑みて、0A0番号通知になることを容認、または緊急通報を利用できない場合であってもモバイル端末で補完する等で対処しているものと想定。

#### ③提供エリアについて、モバイル網部分が電波状況に依存（電波不感知エリアがある）

⇒ ひかり電話ネクストにおいても光提供エリア外には提供できず、**提供不可エリアがある点では同等**

- このように、**中小法人向けの0ABJ電話サービス市場において、ひかり電話ネクスト以外にも様々なサービスや代替手段が存在しており、中小法人ユーザは多様な選択肢の中から費用対効果等を鑑み、サービスを選択可能**であると考えております。

※次頁に当社が想定する電話サービス市場でのサービスマッピングを記載

# 【参考】電話サービス市場でのサービスマッピング（当社想定）

➤ 中小法人向け 1 ～ 2 CH電話市場には多様なサービスが存在し、ユーザは費用対効果を踏まえて選択可能

| Ch数              |                                          | マス                                      |      | 法人                                  |     |  |
|------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------|------|-------------------------------------|-----|--|
|                  |                                          | 1ch                                     |      | 1ch                                 | 2ch |  |
| OABJ電話サービス       | 電話単体                                     | メタル回線                                   | 加入電話 |                                     |     |  |
|                  |                                          |                                         | ISDN |                                     |     |  |
|                  | ワイヤレス                                    | ワイヤレス固定電話                               |      |                                     |     |  |
|                  |                                          | モバイル0ABJ-IP電話：おうちの電話等                   |      | モバイル0ABJ-IP電話：Arcstar IP Voiceワイヤレス |     |  |
|                  | 光回線                                      | ひかり電話ネクスト                               |      |                                     |     |  |
|                  |                                          | 光回線電話                                   |      |                                     |     |  |
|                  |                                          | 光回線を用いた0ABJ電話：auひかり マンションタイプ            |      |                                     |     |  |
|                  | (参考)<br>ブロードバンドサービスとセット<br>(光回線/モバイルルータ) | ひかり電話                                   |      |                                     |     |  |
|                  |                                          | 光IP電話（0ABJ）：KDDI光ダイレクト、おとく光電話 等         |      |                                     |     |  |
|                  |                                          | クラウド電話：UniTalk、auオフィスナンバー、オフィスリンク 等     |      |                                     |     |  |
| (参考)<br>0ABJ電話以外 |                                          | 音声通話アプリ：teams・zoom・Webex・LINE電話等        |      |                                     |     |  |
|                  |                                          | 050番号IP電話アプリ：ビジネスナンバーセット・モバイルチョイス“050”等 |      |                                     |     |  |

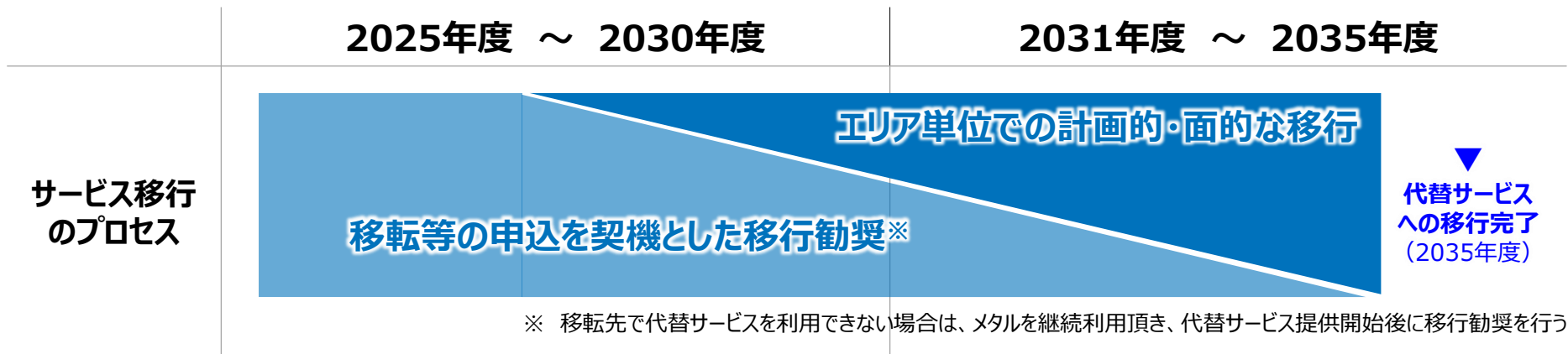
中小法人向け1・2ch電話サービス

### 3. 個別論点に関する当社の考え ～接続での代替性～

- ひかり電話ネクストは、需要の縮退に伴いサービス提供を終了するフレッツ光ライトの後継として提供開始したサービスですが、固定電話サービス市場の更なる縮小を踏まえてコストミニマムに提供する観点から、既存設備・機能を活用しつつ必要最低限の機能開発にて提供を実現していること、また、**事業者様から優先転送機能を用いて「ひかり電話ネクスト」に相当するサービスを実現することの具体的なご要望をいただいていない**ことから、現時点において優先転送機能を提供していません。
- 現時点において事業者様から具体的な接続機能提供に関するご要望がない理由としては、需要の縮小が続く固定電話サービス市場に対して、事業者において新たに機能開発（当社の開発費用も負担）してまで、優先転送機能を活用した固定電話のみサービスを提供するニーズがないのではないかと推測しています。
- ただし、今後、**事業者様から具体的なご要望があれば、必要な費用をご負担いただくことを前提として、機能の実現に向けた協議・検討を実施する考え**です。
- なお、接続での代替性を議論するにあたっては、卸と接続では事業者様において新たな設備投資の要否が異なるなど、リスクとリターンの関係が違うことも考慮すべきと考えます。

### 3. 個別論点に関する当社の考え ～メタル縮退計画～

- 当社としては、メタル設備を用いた固定電話の利用の減少等を踏まえれば、将来にわたってメタル設備を用いた固定電話を継続することは現実的ではないため、2035年度を目途に縮退する考えです。
- 縮退にあたっては、加入電話をご利用中のお客様にご不便をおかけしないよう、短時間で急速な移行を行うのではなく、段階的に、移転等の申込を契機とした移行勧奨～エリア単位での移行を実施していく考えです。
- メタルの維持限界への対応に向けた具体的計画、代替サービス（現時点では光回線電話、モバイル網を利用した固定電話等を想定）については、通信政策特別委員会の議論等も踏まえつつ、現在検討中であり、お示しできるタイミングで公表するとともに、事業者様に対しても、丁寧な説明を実施させていただく考えです。



## 4. まとめ

- 当社としては、モバイルや通話アプリでの代替により需要の縮小が続く固定電話サービスに対して、競争政策に係る新たな規制を導入する必要はないと考えているところ、今回論点となっているひかり電話ネクストは、需要の縮退したフレッツ光ライトの後継として提供開始したサービスであり、その施設数の割合は電話サービス市場全体に対して0.07%（卸のみでは0.02%）であり、市場における規模やシェアから見て公正競争に与える影響は極めて小さいものと考えます。
- また、個別の論点となっている代替性に係る当社の見解は以下の通りです。
  - ✓ サービスの代替性：中小法人向けの0ABJ電話サービス市場において、ひかり電話ネクスト以外にも様々なサービスや代替手段が存在しており、中小法人ユーザは多様な選択肢の中からサービスを選択可能。
  - ✓ 接続での代替性：現時点において事業者様からご要望はないが、今後、具体的なご要望があれば、必要な費用をご負担いただくことを前提として、実現に向けた協議・検討を実施。
- 以上を踏まえれば、ひかり電話ネクストは特定卸の要件（公正競争上の影響が大きい）に該当しないものと考えており、メタル回線の縮退を進める場合の代替サービスの具体的な提供計画の公表前であっても、特定卸電気通信役務の範囲から除外すべきと考えます。
- なお、ひかり電話ネクストが特定卸電気通信役務となるか否かによらず、事業者様に対しては引き続き丁寧な協議を行うとともに、メタルの維持限界への対応に向けた具体的計画、代替サービスについても、お示しできるタイミングで公表し、丁寧な説明を実施させていただく考えです。